

公益財団法人 鉄鋼環境基金

第 17 回（令和 8 年度）助成研究成果表彰 募集要項

1. はじめに

当財団は、1973 年設立以来、環境研究に対する助成事業を実施してきており、これまでに、累計で 2,238 件、総額 46 億 68 百万円の助成を行ってまいりました。これらの助成研究成果については、環境技術の普及や学術振興への寄与を通して公益に資することを目的に、助成研究成果報告会を実施するとともに財団のホームページ上に公開しております。

当財団では、助成研究成果の更なる充実を図り、助成研究者のインセンティブ向上を目的に助成研究成果表彰を実施しております。

制度の詳細は下記の通りです。積極的なご応募を期待いたします。

2. 表彰項目

賞の名称	表彰対象者
理事長賞 (1 件以内)	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者
技術委員長賞 (1 件以内)	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた <b>若手</b> *助成研究者
鉄鋼技術賞 (1 件以内)	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者

\*若手は、現在の年齢でなく申請された研究テーマで助成を受けた際の助成区分。

3. 表彰制度の詳細

1) 募集～表彰式までのフロー

募集：令和 8 年 2 月 1 日～3 月 31 日

審査：令和 8 年 4 月～6 月

表彰案件決定・発表：令和 8 年 6 月下旬頃

表彰式・受賞記念講演：令和 8 年 7 月下旬～9 月上旬

2) 応募資格

次の、①～④を全て満たす助成研究者に応募資格があります。(過去 4 年間が対象)

- ① 令和 3 年度助成研究（令和 3 年 11 月～令和 4 年 10 月）を終了し、終了報告した助成研究者、令和 4 年度助成研究（令和 4 年 11 月～令和 5 年 10 月）を終了し、終了報告した助成研究者、令和 5 年度助成研究（令和 5 年 11 月～令和 6 年 10 月）を終了し、終了報告した助成研究者、令和 6 年度助成研究（令和 6 年 11 月～令和 7 年 10 月）を終了し、終了報告した助成研究者
- ② 助成研究成果報告書が提出済みであり、かつ、FERAS（鉄鋼環境基金助成研究成果報告書データベース）での公開、公開予定が令和 8 年 6 月 1 日以前であること。
- ③ 研究助成期間 1 年のものは、当初計画から研究期間が 1 年であったもの。  
(2 年目に継続助成を申請して不採択となっていないこと。)
- ④ 助成研究成果報告書と関係の深い対外発表で、次の 3 つの条件を満たす査読論文が 1 件以上あること（応募する時点において査読が完了し論文誌への掲載が決定していれば、発刊前でも可）。

- 原則として、発刊機関の受付（Received）日が助成研究開始から3ヶ月経過以降であること、又は受理（Accepted）日が助成研究開始から4ヶ月経過以降であること。
- 申請者本人が第一著者または責任著者であること。
- 本財団の資金援助を受けたことが記載されていること。

★ ①～③の応募資格を満たす（予定の）助成研究者には、当財団より個別に通知いたします。

### 3) 助成研究の区分と賞の関係

- ★一般研究助成案件については、理事長賞と鉄鋼技術賞が対象となります。
- ★若手研究助成案件については、3賞全てが対象となります。  
（現在の年齢でなく、申請された研究テーマで助成を受けた際の助成区分に依ります）
- ★前記の2）応募資格①に該当する助成研究が複数件の場合、表彰申請をする助成研究を1つ選んで応募してください。対象となる賞も申請された研究助成案件の区分に依ります。
- ★応募案件がどの賞に該当するかは、応募者が自己申告された区分で審査を行います。
  - ・自己申告では、複数の賞を選択しても構いません。（選択されていない賞の審査は行いません）
  - ・ただし過去に受賞された賞は、**重複受賞できません**。（選択されても審査対象外となります）

### 4) 応募の方法

別紙の助成研究成果表彰申請書（様式は財団のホームページよりダウンロードできます。）に必要な事項を記入し、応募資格④に該当する査読論文の写し（pdf等で可。発刊前のものについては、掲載が決定したことを示す書類も添付のこと。）を添付して、当財団にE-mailにて送付して下さい。申請書はWordファイルのままで送付して下さい。

E-mail 送付先 : 鉄鋼環境基金 事務局 [sept.senmu@sept.or.jp](mailto:sept.senmu@sept.or.jp)

提出期限 : 令和8年3月31日（火）17:00 E-mail 発信まで

### 5) 審査対象書類（提出書類）

- ① 助成研究成果表彰申請書
- ② 提出済みの助成研究成果報告書
- ③ 対外発表の査読論文1件

\*前記の2）応募資格④を満たす論文が複数件ある場合は、審査資料として最も相応しいと申請者が考えるものを1件のみ選んで提出してください。

### 6) 審査

表彰案件の審査は、当財団の技術委員会において行います。

### 7) 表彰者の決定

技術委員会の審査結果に基づき、理事会にて表彰者を決定します。

### 8) 表彰者の公開

表彰者をホームページに掲載するとともにプレスリリースします。

### 9) 表彰式ならびに受賞記念講演会

表彰式を行い、引き続き受賞記念講演会を行います。

以上

申請書作成上の注意

審査番号：(記入不要)

公益財団法人 鉄鋼環境基金

第 17 回 (令和 8 年度) 助成研究成果表彰申請書

申請者	所属・役職		<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属は大学の学科相当まで</li> <li>・役職をお忘れなく</li> </ul>
	ふりがな		
	氏名		
	連絡先	郵便番号	
		住所	
		T e l	
		E-mail	

1. 申請区分に対する申告 (希望の賞に○印： 複数に○をしても可)	<input type="checkbox"/> 理事長賞      : 一般研究、若手研究 対象 <input type="checkbox"/> 技術委員長賞   : 若手研究 対象 <input type="checkbox"/> 鉄鋼技術賞      : 一般研究、若手研究 対象
2. 助成研究テーマ	

3. 助成研究成果の概要と功績
<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章のみ(図表挿入不可)で簡潔に記載してください。</li> <li>・文字のフォント、大きさは変えないでください。</li> <li>【概要】と【功績】の記載比率は多少変えても結構です。</li> <li>・下記「4. 助成研究の実績」までを1ページに収めてください。</li> </ul> <p>【功績】</p>

4. 助成研究の実績 (申請する助成研究に関連するもののみ記載してください。)						
主要研究項目	2019 年度 19/11 月～20/10 月	2020 年度 20/11 月～21/10 月	2021 年度 21/11 月～22/10 月	2022 年度 22/11 月～23/10 月	2023 年度 23/11 月～24/10 月	2024 年度 24/11 月～25/10 月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果表彰に申請する助成研究を応募した際の申請書と同様の研究項目、スケジュールを記載してください。</li> </ul>						
所要研究費の総額 (千円)						
本財団の助成金 (千円)						
特許出願件数						
対外発表件数 (含む口頭発表)						
査読論文発表件数 (*1)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対外発表件数には査読論文件数も含まれます。次頁の 6. と 7. の合計件数と合致するようにしてください。</li> <li>・2025 年 11 月以降に発表分は 2024 年度欄に合計して記載。</li> </ul>						

\*1：応募時点までに、論文掲載が決定したものを含む。対外発表件数の内数。

5. 申請した特許（関連特許が多い場合は、基本特許のみ記載）				
No.	発明の名称			出願日
1				
2				
3				

  

6. 発表した又は発表が決まった査読論文（このうち審査資料とする1件の写しを添付）				
No.	論文名	主執筆者 (*2)	掲載論文誌 (学会)	発刊日
1				
2				
3				
(*2) 主執筆者とは第一著者または責任著者としてします。 主執筆者が申請者の場合は「○」を、共同研究者の場合は「△」を、氏名の前に記入のこと。 本リストには、助成研究との関係の深い論文であれば、申請者が主執筆者でないものを含めても良い。				

  

7. 上記以外の対外発表			
No.	発表題目	発表場所	発表日
1			
2			
3			

- ・「4. 助成研究の実績」の対外発表件数は、「6. 査読論文」の件数と「7. 上記以外の対外発表」の件数の和と一致させてください。
- ・5. から7. までは、適宜行を削除・追加してください。1 ページに収めることが望ましいが、発表件数が多い場合は、枚数が増えても構いません。